

講義名	基礎簿記			授業形態	
担当教員	孫 美晃	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
			ナンバリング・コード	ACC140	

主題と概要

簿記は企業の利益を計算するための技術で、利益計算には二つの意味が含まれています。一つは儲けたかどうかを知るための事後的な計算（この計算結果は株主、銀行、一般投資家など会社外部の利害関係者に開示される）、もう一つは儲けるための事前的な計算（この計算結果は経営者が経営戦略を立てるために用いられる）です。この計算技術の基本的な仕組みが理解できれば、会社経営はもろろん会社の経営実態を理解することができます（たとえば、株式投資のための企業分析を行うとき）。簿記の計算技術によって作成される財務諸表には、会社の経営実態を把握するための豊富な情報が含まれています。本講義の履修を通じて、企業の財政状態、経営成績に関する簡単な財務諸表を作成することができ、財務的な視点から企業の問題点を理解するために必要な基礎能力が身に付きます。本講義では財務諸表を読むための第一歩となる複式簿記の基本をマスターすることを目的とします。講義内容は概ね日本商工会議所主催の簿記検定4級から3級までのレベルに相当します。

到達目標

- ・日本商工会議所主催の簿記検定試験初級および3級（一部）の内容について理解できるようになります。
- ・企業の財政状態、経営成績に関する簡単な財務諸表を作成することができ、ティプロマ・ボリシー（5）の基礎能力を身に付けることができます。

提出課題

- ・ ほぼ毎回の講義で課題の提出を求めます。
- ・ 小テストを事前学習なく、複数回実施します。授業のはじめに行うので、遅刻しないように注意してください。
- ・ 中間試験を実施します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題や小テストを回収後、解答を配布します。また、必要に応じて解説します。点数は採点后、後日公開します。

評価の基準

平常点（課題ほぼ毎回、小テスト複数回、中間試験1回）60%、定期試験40%の割合で評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

基礎簿記では簿記の基本用語や仕組みの解説をするので、欠席するとその後の内容の理解に支障が出ます。毎回出席することを心掛けてください。

教科書

.使用しない。

参考図書

.土日で合格の日商簿記初級<第2版>.	資格の大原	中央経済社	1320	9784502290817
.日商簿記3級とあるテキスト【第3版】.	森原 知之	ネットスクール出版	2200	9784781033112

その他

<プリント資料>
講義中、配布します。

授業計画

第1回 会計と簿記の意義 予習内容：キヤンパルクロスからの講義内容を熟読し、Teams上のクラスに登録する。また、簿記とは何かについて事前に調べておく。 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第2回 貸借対照表と損益計算書 予習内容：指定した参考図書を利用して、貸借対照表と損益計算書の定義、構成する要素について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第3回 貸借対照表と損益計算書 予習内容：指定した参考図書を利用して、貸借対照表と損益計算書を利用した純損益の計算方法について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第4回 仕訳と転記 予習内容：指定した参考図書を利用して、仕訳と転記について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第5回 期中取引：商品売買取引 予習内容：指定した参考図書を利用して、商品売買の三分法、掛取引について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第6回 期中取引：商品売買取引 予習内容：指定した参考図書を利用して、商品売買の返品、商品売買の諸費用について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第7回 期中取引：現金・預金取引 予習内容：指定した参考図書を利用して、現金・預金取引について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第8回 期中取引：約束手形・電子記録債権と電子記録債務 予習内容：指定した参考図書を利用して、約束手形・伝記記録債権と電子記録債務について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第9回 期中取引：その他の債権と債務 予習内容：指定した参考図書を利用して、貸付金・借入金、未収入金・未払金、前払金・前受金について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第10回 決算 予習内容：第9回までの講義内容について目を通す。(120分) 復習内容：講義中配布した演習問題について理解を深める。(120分)
第11回 中間試験 予習内容：第10回までの講義内容を復習する。(240分)
第12回 期中取引：固定資産と有価証券 予習内容：指定した参考図書を利用して、固定資産と有価証券について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第13回 試算表の作成 予習内容：指定した参考図書を利用して、試算表の作成について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第14回 決算整理：売上原価の計算 予習内容：指定した参考図書を利用して、売上原価の計算について予習する。(120分) 復習内容：講義内容の理解を深める。そして課題に取り組み。(120分)
第15回 決算整理：減価償却 予習内容：指定した参考図書を利用して、固定資産の原価償却について予習する。(120分)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定・学位授与の方針（1）との関係：簿記の初歩的な知識になるため業界の動向や問題点を理解するまでには至らないが、財務的な視点から問題点を理解するために必要な基礎能力が身に付きます。
卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：企業の財政状態、経営成績に関する簡単な財務諸表を作成することができます。
卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：財務的な側面から企業が直面する問題や強みを発見するための基礎能力が身に付きます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。
ICTの活用：Teamsを利用します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あります。
実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないですが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思ひます。

備考